

編集後記

大変遅くなりました、『過労死防止学会誌』第1号、創刊号をお届けいたします。

昨年初頭から日本だけでなく、世界中でコロナ禍が大きく拡がり、生活や働き方など様々な部面でこれまでにない対応を強いられ、いろいろな問題が生じています。個人的にも、研究会やゼミの中止・延期で出かける機会が減り、オンラインによる研究会や会議が普通に行われるようになりました。働き方における大きな変化では、在宅勤務、リモートワーク、副業解禁などの新たな動きがあり、働くすべての人々、特に非正規労働者やフリーランスなどへの影響が大きな問題となってきました。

このような働き方に対する大きな変貌を前にして、医療現場や介護現場などで働く人々をはじめ、多くの職場の人々において、コロナ禍における肉体的また精神的な影響がどう変化しているのか、過労死防止という観点からそれをどのように捉えていくのか、そのことはこの学会に課された使命であり、重要な課題でもあります。

過労死防止学会の大会は、これまで5月下旬から6月初めに開催され、今年度も5月30～31日に名古屋での開催を予定していました。3月末までは開催準備作業を続けていましたが、4月上旬にコロナ禍が収まらない中で、開催を秋に延期することを決め、掲載した「資料」にありますように、規模を縮小して9月中旬の一日のオンライン開催とし、少人数の会場参加と会員・会員外のオンラインによる参加を、7月中旬に決めました。また、通常であれば、大会前に『報告要旨集』を準備して会場で配布することになっていましたが、オンライン開催と規模縮小のため、『報告要旨集』はネット配信とし、大会後に「大会報告集」を出すことを計画していました。

この度、「大会報告集」構想から発展して、『過労死防止学会誌』の創刊に至った経緯は次のとおりです。9月の大会が終わり、大会報告と質疑応答の反訳(文字起こし)までは順調に進みましたが、報告者の方々への論文執筆依頼に私の事務的なミスがあり、その事で10月下旬に代表幹事の黒田兼一先生から私に電話があり、運転中のため車をショッピングセンターの駐車場に停め、少し長く話をしました。黒田先生からは、この度の冊子は単なる「大会報告集」ではなく、大会の報告者が報告と質疑応答を経て、報告よりも一步進んだ論文を書いていただくこと、内容を充実して『学会誌』として刊行し、さらに今後は編集委員会を組織し、会員に論文の投稿を呼びかけ、学会活動の一つとしての『学会誌』の位置づけを熱く語られました。その後、常任幹事の皆様と議論を重ねて、幹事会の了承を得て創刊号の刊行に至りました。今回編集の過程で、この学会設立の経緯を調べますと、創設者の一人、森岡孝二先生が学会設立構想の中に、「機関誌の定期発行」を将来の目標としていたことがわかりました。森岡先生は私達が進むべき道を既に示しておられたのです。

急遽決まった『学会誌』の編集・発行は常任幹事会が担うこととなり、編集実務にまったくの素人である私が作業で右往左往しながら、黒田先生はじめ常任幹事の皆様の助力を得ながら、何とか『学会誌』として形あるものにしてきました。しかしながら、編集実務の不慣れや原稿執筆者対応など、いろいろな事情により、12月の発行を目指しながらも、とうとう年度末の3月の発行となったことは、会員の皆様には申し訳ないと思っております。

創刊号は「手作り」感満載の姿となりましたが、報告論文だけでなく大会当日の反訳を掲載することで、臨場感ある冊子としました。今後、大会報告論文だけでなく、会員の皆様からの投稿論文、現場報告などを掲載する『学会誌』として、充実と発展を期待しています。

2021年3月20日

高田好章 (事務局編集担当)